

「第4回 金杉台中学校に関する地域説明会」会議録

- 1 開催日時 令和2年2月8日（土）9時30分～11時10分
- 2 開催場所 金杉台中学校3階視聴覚室
- 3 参加人数 44人

【司会】

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。まず、資料等の確認をいたします。3種類ございます。「次第」、「統合・通学区の見直し案等に関するアンケート集計結果報告」、「ご意見等記入用紙」です。不足はございませんでしょうか。

続きまして、皆様にお願いがございます。会の進行上、携帯電話、スマートフォン等をお持ちの方は、マナーモードにさせていただくか、電源をお切りいただくようご協力をお願いいたします。また、本日の説明会の終了時刻は、11時を予定しております。学校をお借りしての限られた時間となりますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。

なお、本日の説明会に当たり、金杉台中学校の校長先生をはじめ先生方にご協力をいただきましたこと、感謝申し上げます。

それでは、ただいまより「第4回金杉台中学校に関する地域説明会」を始めます。はじめに、船橋市教育委員会教育次長よりご挨拶申し上げます。

【教育次長】

皆様おはようございます。

本日はお忙しい中、第4回の地域説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

教育委員会では、現在全学年1学級であり、今後も同様の状況が続き、生徒数は減少すると推計されております。金杉台中学校について、望ましい教育環境を維持するための方策の検討を平成29年度より行ってまいりました。

これまでの間、地域の皆様方から様々なご意見をいただきながら、検討を進めてまいりましたが、教育委員からは、いつまでも子供たちを不安な状況にしておくのは良くないとの意見もいただいております。金杉台中学校の今後について、方向性を示す時期に来ているというふうに考えております。

本日は、時間の許す限り、皆様方から様々なご意見やご心配事など、お聞かせいただきまして、考えてまいりたいというふうに思っております。本日はどうぞよろしくようお願いいたします。

【司会】

それでは、次第に従い進めてまいります。本日の説明会は、議事録を作成いたしま

す関係上、質疑応答等を録音させていただきます。ご承知おきください。皆様には、録音、録画、写真撮影はお控えくださいますようお願いいたします。

それでは、次第の「2. 統合・通学区域の見直し案等に関するアンケート集計結果報告」、「3. これまでのご意見等を踏まえた金杉台中学校に関する検討内容」2点について、続けて説明いたします。説明は、表題が「統合・通学区域の見直し案等に関するアンケート集計結果報告」という資料になります。

【教育総務課長】

それでは、次第に基づきまして教育総務課から説明させていただきます。なお、説明につきましては着座にて失礼いたします。

先ほど、教育次長からも話がありましたが、これまで、金杉台中学校は、1学年1学級が続いて、今後も生徒数が減少していくことが見込まれることから、子供たちの教育環境を考え、御滝中学校との統合が望ましいと説明してまいりました。

昨年9月に実施した保護者アンケートでは、指定学区の約5割、選択地域の約8割の方が御滝中学校に進学予定とのご回答がございました。

しかし、自由意見では、学区の見直しにより金杉台中学校の存続を検討すべきではないかというご意見が多数ございまして、統合を賛成する方の中からも同様の意見がございました。

教育委員会といたしましては、通学距離や地域コミュニティーのつながりなどを考慮すると、学区の見直しは好ましくないと考え、地域説明会でもそのように申し上げてまいりましたが、この自由意見を受けまして、このまま統合が望ましいとして進むのではなくて、統合か、あるいは学区の見直しによる金杉台中学校の存続か、地域の声を伺いながら、改めて検討する必要があると判断いたしました。

こうして迎えた11月30日の第3回地域説明会、お忙しい中、都合を付けていただきご参加された皆様には感謝いたしますが、参加者が30名にも満たず、このときにいただいたご意見をもって統合か、あるいは学区の見直しによる金杉台中学校の存続か、判断することはできませんでしたので、地域の皆様、特にこれから中学校の進学を控える小学生がいらっしゃる保護者の考えを把握するため、再度アンケートを実施したところでございます。

今回の保護者アンケートにつきましても、たくさんの方からご回答があり、この場をお借りしまして、ご協力に感謝いたします。

それでは、これより、お手元の資料「統合・通学区域の見直し案等に関するアンケート集計結果報告」についてご報告させていただきます。

資料の2ページをご覧ください。アンケートの調査目的は、今述べたとおりでございます。続いて、調査方法となりますが、調査対象者といたしましては、9月の保護者アンケートでは対象を4年生から6年生といたしましたが、その際のアンケート結果や第3回地域説明会でのご意見も踏まえまして、今回は、関係小学校の1年生から6年生の保護者に対象を広げました。調査方法は、各学校を通じ、アンケート配付・

回収をいたしております。調査期間は令和2年1月6日月曜から15日水曜までとなります。

続いて3ページ、下のほうですが、「4. アンケートの回収結果」につきましては、対象者945人に対し、回答のあった児童数が807人、回答率は85%でございました。このページの表は学校別、4ページの表は学年別の回収結果でございます。

続いて、5ページ。「5. 集計概要」をご覧ください。繰り返しになりますが、今回のアンケートの調査目的は、統合か、学区の見直しによる金杉台中学校の存続か、保護者の意向を把握することにあります。また、その中で、これまでのご意見にもありました、少人数であることを希望する意見や選択地域についても整理できるようにいたしました。その結果でございますが、6ページ上段の表、「(1)全体の集計概要」をご覧ください。「a. 統合したほうが良い」546人、68%、「b. 小規模校を維持又は、選択地域の継続」が41人、5%、「c. 学区変更をし、通学指定校変更を認めない」が160人で20%、「d. 学区変更をし、指定校変更制度は継続する」が42人で5%、「e. その他・未回答」18人、2%という結果でございました。なお、このうち、「c」の160人については、次の7ページ、8ページにお示しした「見直し案①」、「見直し案②」、「どちらでも良い」の3つの選択肢を選んだ回答者数の合計であるため、さらに詳細にクロス集計いたしました。

7ページをご覧ください。「見直し案①」は、現在の選択地域のうち、金杉台中、御滝中からの距離がおおむね同程度となる地域、オレンジ色の部分を境に金杉台中の指定学区とする案となります。この「見直し案①」を支持した回答数は59人、「どちらでも良い」の回答数29人と合わせますと、合計88人となりますが、この場合、水色の区域C・Dと緑の区域Eが、現在同様、選択地域であり続け、この区域の方は、見直し案①に変更しても、確実に金杉台中に進学するとは言えません。見直し案①の場合、金杉台中学校に進学する意向を示された方は、白抜きの区域A及びオレンジ色の区域Bにお住まいの28人、全体の3%と分析しております。

次に8ページをご覧ください。「見直し案②」は、現在の選択地域を、ほぼ、金杉台中の指定学区、赤で塗った部分になります、そのような案となります。この「見直し案②」を支持した回答数は72人、「どちらでも良い」の回答数29人と合わせますと、合計101人となりますが、この場合、見直し案①と同様に、見直し後も選択地域となる水色の区域Dと緑色の区域Eが残るため、この案で、金杉台中学校に進学する意向を示された方は、白抜きの区域Aと、赤の区域B・Cにお住まいの97人、全体の12%と分析しております。なお、これらの数字は、1年生から6年生の合計となるので、中学校の3学年で考えるとその半分、見直し案②においても50人弱となります。

ここで、資料は飛びますが、38ページをご覧ください。38ページ、下の表は、金杉台中学校の生徒数の推移と今後の推計ですが、こちら、合計に載っております生徒数の数と比較いたしましても、今回のアンケートから、生徒数の増加は読み取れませんでした。金杉台中学校を存続させるためには、前提として、生徒数が増え、1学年

複数学級が組める程度になる必要があります。お示しさせていただいた2つの見直し案は、選択地域を指定学区とし、さらに、賛否はあるとは思いますが、通学距離や部活動を理由とする通学指定校の変更を認めず、金杉台中学校に進学していただく。こうすることで、確実に生徒数を増やすことができるという案です。

なお、16ページから30ページには、自由記述欄に寄せられた67件のご意見を掲載しております。学区の見直しに対する自由意見としては「学区の見直しをするのは良いが、選択できなくなるのはやめてほしい」といった、ご意見が多く寄せられております。このことから、これらの案に賛同していただいた方は、少なかったと判断しております。

続いて資料戻っていただいて9ページをご覧ください。(2)金杉台小学校の集計概要につきましては、金杉台小学校に在籍する児童の集計概要でございます。金杉台小学校は、金杉台中学校の指定学区と選択地域の両方がございますが、「a. 統合したほうが良い」104人で45%、「c. 学区変更をし、通学指定校変更を認めない」が100人で43%。「a. 統合したほうが良い」が若干多い結果となりました。次にこのページ下の表は、(3)金杉台小学校以外の5校、高根小、金杉小、三咲小、二和小、法典東小の5校に在籍する児童の集計概要でございます。「a. 統合したほうが良い」が442人で77%、「c. 学区変更をし、通学指定校変更を認めない」が60人で10%。「a. 統合したほうが良い」が全体の四分之三を占めております。

なお、10ページは、学区別の集計概要、11ページからは実際のアンケートの集計結果となります。

また、32ページからは、お配りしたアンケート用紙を、また、38ページからは、アンケートにお答えいただく前にお読みいただくパンフレットを付けさせていただきました。お手元の資料の説明は以上となります。

また、今月4日に開催されました教育委員会会議定例会では、「船橋市内の学区見直しに関する陳情」や「金杉台中学校を廃校にするか存続するかを決める時期の延期を求める陳情」など7件の陳情がありましたが、いずれも全会一致で不採択となりました。来月上旬には会議録を市のホームページで公開いたしますので、ご覧いただければと思います。また、教育委員からは、今回の保護者アンケートの結果に加え、これまでの検討や地域との意見交換をしてきたことを総合的に考えると、統合に向けて進める時期だと考える、とのご意見をいただきました。このことから、統合か、学区の見直しによる存続かで、改めて検討してまいりましたが、今後は、統合に向けて課題を整理していきたいと考えております。

なお、これからの予定ですが、3月5日木曜日の教育委員会会議で何年後に統合するのかの時期も含めた統合方針・骨子について諮ってまいりたいと考えております。その結果につきましては、3月28日土曜日に開催を予定しております、第5回地域説明会で説明させていただきます。

教育総務課からの説明は以上です。

【司会】

それでは、ただいまの説明に関して、ご質問、ご意見をお伺いしてまいります。

ご質問、ご意見のある方は挙手にてお知らせください。なお、より多くの方の発言をいただけるよう、お一人の時間は3分程度でお願いできればと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。それではご質問のある方。では、一番前の方からよろしくお願ひいたします。

※以下、発言者の意見にかかわらない部分において、事実と相違する内容について、誤解を招かないようにするため、補足しています。

【発言者①】

私、この自由記述欄のところで、このアンケートは根本的に問題があるんで、無効であるという意見を書きました。なぜかと言うと、きちんとした情報を与えずに、ある日いきなりアンケート取って、それで、そのアンケートを持ってきて有効であるかどうか疑問があるからです。私たちも、情報を得るまでは統合でいいと思ってましたけど、いろいろ調べて反対に回りました。これ、与えてる情報っていうのは市のホームページを見なさいなんですけれど、さんざん問題があるって指摘された内容そのまんまで情報を与えて、その片寄った情報でもって、アンケートを取っています。そのいわゆる無効であるということについて、それについてどのようなことが検討されたんでしょうか。私はこのアンケートは無効だと思ってます。誰か皆さん、説明していただけますか。

【教育総務課長】

教育総務課長です。今、ご意見がありまして、アンケートの与えられた情報等が片寄っているというようなお話だったんですが、教育委員会といたしましては、そのようなことは考えてはございません。できるだけ多くの情報はホームページ等で皆さんにご提供させていただいていると教育総務課では考えてございます。

【発言者①】

第1回説明会のときに、教育委員会の考え方等というのが配られました。内容があまりに酷いので、その問題点を指摘して、第2回説明会のときに、その批判した内容をお渡ししました。その回答が第3回ときの冊子が回答なんだそうですけど、それがあまりにも手抜きなんだあきれ返っています。その問題点とか指摘されたまんまのものを基に意見を募っているわけですから、それは、検討結果にも影響が出てしまいますよね。あまりにも不誠実な対応であきれ返っています。標準規模、24学級までということで、文部科学省の指針で24学級までが標準規模であるっていうのが、この説明会で繰り返し言われてました。（教育総務課補足：第1回から第3回地域説明会において、教育委員会からは「文部科学省の指針では12学級から18学級までを標準

規模としている」という説明はしていますが、「文部科学省の指針では24学級までが標準規模である」という説明はしていません)ところが私、資料調べましたけれども、見つかりませんでした。メールで問い合わせ、どこにそれが記載があるんでしょと問い合わせましたら、「そんな記載はありません」という回答が返ってきて、とっても驚いてます。つまり、そういう嘘を今まで付いてきたわけですけども、その内容を基に判断させているわけです。実際には、18学級までしか標準学級として認められてませんし、今まで嘘をついてきたわけですよ。で、その回答っていうのが、地域ごとに特段の事情があれば、それに合わせて変えていいよって書いてあるんですけど、じゃあ、その特段の事情が何かっていうの、その前回の第3回的时候に説明しましたが、全く納得できるような特別な事情ではありませんでした。その特別な事情っていうのをきちんとわかるように誰か説明していただけますかね。

【教育総務課長】

教育総務課長です。前回のときと繰り返しになってしまうんですが、特段の事情というのは、船橋市が置かれてます地域性で、宅地開発などの関係で24まで、それが特段の事情という形でございます。また、文部科学省のほうにも問い合わせはいたしました。やはり19学級以上24学級以下は、弾力的な運用の範囲として、それぞれの事情で変えてよろしいというような回答はいただきました。

【発言者①】

その弾力的な運用をするのには理由がなくてはいけないはずですよ。その理由をきちんと説明できないということは、嘘ついていることがあるんじゃないですか。恣意的に運用しているわけですよ。そういった間違っただけの情報を基に判断させてるわけですよ。御滝中学校は既に大規模校です。それを更に過大にしようとしているわけですから、そういった情報を与えずに判断させてますから、このアンケート自体が無効だと思います。

【教育総務課長】

教育総務課です。ただいま御滝中学校が大規模校というお話がありましたけれども、まだ22学級ですので、大規模校ではありません。

【発言者①】

「19学級以上が大規模校とするならば、大規模校」という意味です。

【教育総務課長】

船橋の基準では24学級までが標準規模となっておりますので。

【発言者①】

そこがおかしいと言ってます。ちゃんと、論理的に理解できるようなきちんとした説明をしてくださいという願いをしてるんですけど。そういった、きちんとした論理的な説明を受けたことがありません。

【管理部長】

管理部長でございます。まず文科省のほうで、学校の規模の区分については、今、教育総務課長が説明したとおりなんですけれども、12学級から18学級を文科省としては、これを標準校としています。そして、25学級から30学級までを大規模校というような分類にしております。じゃあ、19から24、その間っていうのは、どういう分類なのかというところは、国のほうについても、そこをどういう基準にするかということは明確には示しておりません。ですので、その部分については、その自治体の規模ですとか、自治体の学校のクラス編制とか様々な理由があって、それを全国統一に定めることはできないということで、私たちは、そこを24学級までを標準学級としようという考え方で整理しておりますが、ということ文科省にもご相談いたしました。それで結構ですという回答を正式にいただいておりますので、私たちは、少なくとも今の市内の小中学校の学校規模、クラス状況から考えて24学級までを標準校という形で整理させていただいているところです。

【発言者①】

その判断した理由を論理的にわかるように説明してくださいって何度もお願いしてるんですけど。その理由ではないです。そのように判断した理由ではないです。

【司会】

申し訳ありません、ほかにも手を挙げてらっしゃる方がいるので、先に質問。よろしいですか。

【管理部長】

今の、「論理的に」っておっしゃってることが申し訳ありませんけど、理解できません。ですから、これは終わってからも結構ですので、お時間取らせていただきたいと思います。

【発言者①】

終わってからだ記録に残りません。

【発言者②】

座ったままで失礼いたします。この資料の、9ページ、10ページですね。今、統合したほうが良い、総合的にアンケートを取って、500何名かという数が出ておりますけど、これは数字のマジックですね。大事なものは、この9ページの金杉小学校に在籍

している人のアンケートの数、「学区変更をし、指定校変更を認めない」この、限られた質問の中ですから、こういうふうな、「c」を選択するしかなかったんだと思いますけれども、これだけの方が、存続を求めているわけですよ。希望しているわけですよ。で、10 ページの上、金杉台中学校の指定学区に入っているところの数字もそうですね。むしろ「統合したほうが良い」よりも多いじゃないですか。この数をどう捉えるかということと、今のお話です。24 までが普通という話ですね。42 ページにありますけれども、この下の欄です。金杉台中と御滝中が統合した場合、学級数が 25、27、28 と、これ、過大規模校になりませんか。これ、過大規模校になってしまう、今度は御滝中学校の問題になりますよ。(教育総務課補足：市の基準、国の基準ともに 25 学級から 30 学級までが大規模校、31 学級以上が過大規模校となっています。そのため、金杉台中学校と御滝中学校が統合した場合、推計上御滝中学校は令和 9 年度まで大規模校にはなりますが、過大規模校にはなりません)あと、この見直し案、いっぺんに言っちゃいますけど、①、②、これも何で 2 つしか案が出てないのかさっぱりわかりません。どうしたらいいんでしょうかっていう、この学区の見直しもアンケートの自由記述で聞くべきではなかったんでしょうか。このアンケートが発行されたときに、広く、地域にも同じアンケートを配付してください。卒業生もいる、ここで育てた親も住んでいる、そういう人たちの意見も広く聞いてくれと言いましたが、それはやっていただけませんでしたね。その返答もいただいておりません。これが広く地域住民に話を聞いて決めたことなのか。そして、今、教育委員会に陳情が 7 件出たと。それに対して、話し合った結果、不採択でしたと。そんな乱暴な答えありますか。出した方、きっとここにいらっしゃいますよ。どういう経緯で、なぜ不採択になったかその説明もないまま、なぜ説明会に臨むんですか。それだけちょっと言いたいです。もっと言いたいんですけど、3 分過ぎちゃうんでやめます。

【司会】

ほかにご意見ありますか。

【発言者③】

学区区域の見直しで、7 ページ、8 ページを見ているんですけども、このオレンジの区域、そして変更が赤の区域になって、これでも通う生徒の数は増えないっていう説明がありましたけれども、そしてこの、緑の区域だけは選択区域で変わらないわけですよ。ということは、このオレンジも赤の区域も、もともと子供の数が少ないとかいらない区域を指定区域にして、この緑の区域、ここがまだ依然として選択区域。ここだけポツンと。なぜ指定区域にしてくださらないのか。

【司会】

緑の区域についてです。

【学務課長】

学務課でございます。前回の説明会でも説明させていただいたところなのですが、この緑の地域は、旭中の学区ということも絡んでおりまして、そちらの地域の見直しも今後は必要だというふうには、教育委員会としては捉えております。ですから、その地域を今回の金杉台中、御滝中の学区の見直しというところでは、該当として入れておりません。また、ここからもし御滝中に通うとなると、かなり、今旭中に通っている子たちの通学距離も遠くなってしまうというデメリットもありますので、今回は、ここについては、選択地域のまま残したという経緯でございます。

【管理部長】

すみません。今のご質問に補足させていただきます。44 ページをご覧くださいませでしょうか。この見直し案①、通学距離をちょうど半分になるような、オレンジ色の方、ここに住んでいらっしゃる小学生の方が全員確実に金杉台中に行っていくとなると、44 ページになるんですね。そうすると、仮に令和 4 年度、通学区域変更とかいろいろ手続きがあるんで、実際にできたのが令和 4 年度からというふうにしますと、各学年、このように複数学級ができます。全校生徒についても、150 人、160 人、170 人ということで、向こう 10 年ぐらいは、子供が最終的には少子化で減っていくとしても、この推計ができる令和 13 年度までは学校として存続ができるんです。それから、あとは、46 ページご覧ください。現在の選択地域、実際ここは旭中を選択される方が非常に多いものですから、地域性からここだけは除いておりますけれども、このピンクの選択地域を全員金杉台中に、仮に、行っていただくとすれば、ご覧のように、46 ページのように金杉台中が最も生徒が多かった時代、クラス、教室がいっぱいになるくらいの子供たちができるんです。ですから、考えられるものとして、もちろんこの 2 つだけをはがっちりっていうわけではなくて、この案を賛同いただければ、①か②の中で、まあ①のほうが多いのか②のほうが多いのかっていうのはもちろんありますけれども、そこはまた地域の声を聞きながら、この線引きの修正みたいな形はできるかと思えます。ですが、いずれにしてもこの①、②っていう形になれば、学校はずっと存続できるだろうと。そうすれば逆に、例えば見直し案でいけば、先ほどもご意見が出ましたけど、御滝中が今すごくいっぱいじゃないかというご心配の声もあるんですけれども、御滝中についても子供たちがこのように 500 人台、600 人台という形で、今よりもかなりゆとりのある環境になってくるかなということ、ある意味、どちらの学校にとってもいいんじゃないかというようなふうに思っておりますのでこのようにご提案をさせていただいたところです。

【司会】

お願いします。

【発言者④】

第1回の保護者説明会のおきからずっとそうなんですけれども、金杉台中学校の生徒が減った原因が、あたかも自然減であるかのように教育委員会からは情報提示がされています。でもそれは誤りである、事実ではないということがどこにも情報提供されてません。アンケートのおきもそうです。自然に子供が減ったから金杉台中学校の生徒が減っちゃってこんななっちゃいましたっていうような説明です。でも、違います。皆さんご存じなのかご存じないのかしらばっくれているのかはわかりませんが、今はかなり広い地域が金杉台中学校と御滝中学校の選択区域になっていますけれども、私が在籍していた30年ぐらい前は違いました。大半が金杉台中学校の指定区域でした。金杉台中学校しか行けませんでした。御滝中学校にちょっと近いほうの人、御滝中学校の周りのごく一部の、金杉5丁目の一部だけが選択学区で、それ以外は全て金杉台中学校の選択区域でした。（学務課補足：「船橋市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則」は、昭和62年4月1日に施行していますが、施行後に、**金杉台中学校の通学区域（指定学区）が少なくなるような改正はしていません**）そして、部活動を理由に御滝中学校に転校するというおことも一切認められていませんでした。それが、教育委員会の方針でしょうね、あるいは陰謀かもしれません。いずれ金杉台中学校を潰すという陰謀がもうあったのかもしれませんが、指定学区をどんどん、金杉台中学校の指定学区をどんどん少なくしていったのは、部活動を理由に御滝中学校に行けるように変えていったのは、教育委員会、船橋市です。その結果として、当然ですけれども、金杉台中学校が減りました。生徒が減りました。減らしてきたのは船橋市です。教育政策のたまものです。狙ってたんでしょうから。それを一切知らせずに、歴史的な経過を知らせることなく、「自然に子供が減ってきたからしょうがないよね」という空気を作り出そうとしているようにしか見えません。そういった歴史があつてそうになっているということをお一切情報提供してこなかったのは、意図的に金杉台中学校を廃校にすることを狙っているとしか思えません。すごくずるい、汚いやり方だというふうに私は感じます。

【司会】

その他ご意見ございますでしょうか。

【発言者⑤】

私は、今選択地域に住んでいる小学生の母親です。今、この資料の中でたくさんのご意見が書いてあります。その意見がとても大事だと感じています。私が住んでいる地域は、見直し案②だと金杉台中学校区に指定になりますが、一番遠いと思います。近いのは高根中学校です。高根中学校と御滝中学校は距離的に一緒です。規模も高根中学校はそんなに多くないです。ちょうど、通学する規模としてちょうどいいので、私は選択するおしたら高根中かなって思っていました。まだ子供は低学年ですけれども、学校で役員をやっている関係で、市民の会の活動にも参加していて、とても、青少年

補導委員のOBの方たち、そのまま何年も任期を続けている方たちの見守りがとても良くて、そして、今どの学校でもありますけれども、不登校問題ですね。御滝中学校もとても多いと聞いていますし。それからスクールガード問題。スクールガード連絡調整会議に出席したんですけれども、とてもスクールガードさんが減っているという。そして、今ここのアンケートの皆さんの記述のところにもとても遠い距離を通学となると、とても不安であると。スクールガードさんが少ない。下校時刻にすごく時間がかかると、習い事に行くまでの時間と。そういう子供たちの困ることを考えてくださっているのか。指定にしまして一番困るのは子供だと思います。このアンケートの数字だけでなく、切実な声をもう一度検討していただきたいと思います。結論を急ぐのではなく、ここに書いてある金杉台団地の住宅事情ですね。今ありましたけれども、寂れていってしまっている、そこを活気付けるために、学校がなくなったら余計に寂れていくと思いますし。それから不登校の子供たちがフリースクールの様な感じで通えるような教室とか設備が整っているものをなくすのではなく、そこに不登校の子供たちが「ちょっと通ってみようかな」と思えるような環境、そこで人数が少しでも増えていく。御滝中在籍の不登校の子供たちが、少人数で見てもらえる、丁寧に指導してもらえる、「じゃあちょっと金杉台中の教室に行ってみようかな」と思えるとか、そういうようなもっと違う考え方で進めていただきたい。昨日、NHKの朝の番組をご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、平川理恵さんという、広島教育長の方、民間出身の。とても良いご意見をお話しされてたと思います。今、子供たちが自分の考えで学習する。そういうことが必要で、そのためにも金杉台中が役に立っていけるのであれば、ぜひご検討いただきたいと思います。長くなって申し訳ございません。

【司会】

では、後ろの方から先をお願いします。

【発言者⑥】

すみません、質問というか確認なんですけれども、5ページの集計概要、カスケード、どうしても計算が合わないんで。「そう思う」と答えたのが546ですよね。合ってますよね。で、「そう思わない」というのは、これは何人になるんですかね。Q5に、見直し案①に賛成、これ、7ページを見ると59。これであってますか。それから、その横の②に賛成、これ8ページを見ると72で、どちらでもいいが29。その横のどちらも良くないが次のページを見ると18になって、これを足すと178で、「そう思う」が178人になる。で、「d」の「そう思わない」を足すと219になって、全体が合わなくなっちゃうんだけど、これの一つの升の数を正しく教えていただくと助かるんですけれども。どうでしょうか。

【司会】

すみません、ちょっとこちらも把握しきれなかったんですけれども、6ページの表の部分と。

【発言者⑥】

6ページ、7ページ、8ページに書いてある数を足していくと、どうも数が合わないんだけど、ちょっと教えていただけると助かります。

【教育総務課担当者】

教育総務課からお答えさせていただきます。7ページ、8ページについては、「見直し案①がいいでしょうか」、「見直し案②がいいでしょうか」、「どちらでもよいでしょうか」、「どちらもよくないでしょうか」という答えがありまして、見直し案①の区域別、7ページのほうに関しますと、「どちらでもいい」の29人が、案の②のほうに同じように足してございます。重複しております。

【発言者⑥】

わかりました。

【教育総務課担当者】

ですので、そこを足すとももちろん、こちらの最初の160人には合いませんということです。

【発言者⑥】

5ページのQ5の見直し案①の賛成は何名なんですか。59ですか。

【教育総務課担当者】

こちらの方は59人ではございません。この、「そう思う」という方と「そう思わない」という方、6番のほうで答えていきますんで、ちょっと今、数を調べますので少しお待ちください。

【発言者⑥】

四角の数を正しく教えていただけると助かるんですけれども。

【司会】

5ページの、それぞれの見直し案①の賛成が何人で見直し案②の賛成が何人で、ということですね。

【発言者⑥】

この数が入っていたらとすごい助かったんだけど、ただ、入ってなかったんで。

【教育総務課担当者】

Q5の「見直し案①」の賛成の方は、14ページにございます88人。真ん中に表が
ございます。「見直し案②」の賛成という方が80人。「どちらでも良い」という方が
38人。「どちらも良くない」と「未回答」の方が8人ですね、両方足しますと。そち
らの方々がQ6にまいます。Q6にお答えになっていただくのが、今、見直し案①
か②か、どちらでも良いという方にお聞きしていきますので、次の15ページで、206
人の方に通学区域の見直しにより、指定校変更制度により通学区域の変更することが
可能であります、こちらの。

【発言者⑥】

すみません、もう1回ごめんなさい、Q5の、5ページの①案賛成は88、合ってま
すか。見直し案②が80、その次が38。

【教育総務課担当者】

はい。

【発言者⑥】

これ足すと、204かな。

【教育総務課担当者】

206です。

【発言者⑥】

ごめんなさい。206ですね。で、これが矢印で下に行くわけでしょ。

【教育総務課担当者】

はい。下に行きます。その答えが15ページで、「そう思う」の方が70人と90人で
160人。

【発言者⑥】

160ですよ。で、「d」が42でしょ。足すと202でしょ。

【教育総務課担当者】

42ではなくて、そこに「未回答」が入ってくる、ごめんなさい、42ですね。

【発言者⑥】

42でしょ。足すと202ですよ。で、あなたが言った見直し案①、②に「どちら

でも」を足すと 206 って言いましたよね。4人、どこに行っちゃった。

【教育総務課担当者】

206は、未回答の方4名がおります。で、この方は整理の都合で6ページの「e.その他・未回答」のほうに入れさせていただいています。途中で未回答の方とか、この「a」、「b」、「c」、「d」に入っていない方とかがいらっしゃってきますので、その方が合わせて18になっています。6ページの「全体の集計概要」というところがございます。

【発言者⑥】

すみません、わかりませんがいいです。

【教育総務課担当者】

また後で、最後あれでしたら。

【発言者⑥】

後で教えてください。

(教育総務課補足：P.5の図に対応する数字は次のとおりです。)

「対象者」...807人

Q3.「そう思わない」...256人、「そう思う」...546人(図にない数値...未回答5人)

「a.統合したほうがいい」...546人

Q4.「そう思う」...214人、「そう思わない」...41人(図にない数値...未回答1人)

「b.小規模校維持・選択地域継続」...41人、

Q5.「見直し案①賛成」...88人、「見直し案②賛成」...80人、「見直し案①、②どちらでも」...38人、「どちらも良くない」...3人(図にない数値...未回答5人)

「e.その他」...18人(Q5.「どちらも良くない」とQ3~Q6の「未回答」を合計)

Q6.「そう思う」...160人、「そう思わない」...42人(図にない数値...未回答4人)

「c.学区変更をし、指定校変更は認めない」...160人、

「d.学区変更をし、指定校変更制度は継続」...42人)

【司会】

では、前の方お願いします。

【発言者⑦】

一人、前の方の質問のほうに戻って、そちらに絡んでなんですけれども、自由記述が大事っていうのは本当にそのとおりだと思うんですね。私は金杉台中学校を残してほしかったので、やむにやまれずこの選択肢の中では学区の見直しをして、しかも変更を認めないというところに丸を付けたんですけれども、でも本音を言えば、子供の

意見が絶対大事っていうのは当たり前で、自由記述欄を見ても「子供の意見が」、「子供の意見が」っていうのが本当にたくさん載っているんです。あともう一つ結構載っているのが、団地として、この地域としてどういうふうに活性化していくのかっていうこととの関連ですよね。そういう広い視点が大事っていうことも、やっぱり自由記述欄のところにはとてもたくさん載っていると思うんですけども、そこら辺が、本当に議論がかみ合っていないと思うんです。なぜ議論がかみ合っていないかと言うと、最初の弾力的な運用の根拠っていうのが何ですかっていうのを、そこを食い下がって聞いてらっしゃったんですけども、以前、弾力的な運用で船橋市の標準規模というのが少し多めに設定されている理由は、「船橋市が都市部だからです」っていうお答えをいただいたことがあります。で、「都市部ってじゃあ何なんですか、その根拠は」っていうふうに聞いたときに、たしか、首都圏から30kmとかでしたっけ。*(教育総務課補足：「船橋市は都心から20km圏に位置し、人口63万人を擁する中核市最大の都市でもあることから、「都市部」として考えている」と回答しており、距離のみをもって都市部とするというような回答はしていません)* どうですか、その答えは。船橋市が都市部である理由は何でしょうか。即答できないんでしょうか。後ほどでも構いませんが、そのとき、その理由を私メールかなんかで問い合わせたところ、首都圏から30kmっていうような答えだったと思うんです。でも、船橋市って、地域によって相当やっぱりカラーが違うっていうことは、皆さんも十分ご存じのとおりだと思います。やっぱり地域特性のほうに鑑みて、同じような小規模校である小室であったり豊富だったりっていうのは簡単に潰せないっていうところで、そこは弾力的に運用しているところだとは思いますが、だから結局、弾力的に運用できる19から24っていうところを標準規模に含めちゃうっていう考え方がそもそも、船橋市全体の標準規模でそれをやっていくっていう考え方がもう既に乱暴だと思うんですね。そういうすごくざっくりした数字の上からの決め事と、自由記述欄の「子供たちの意見が」、「うちの子はこう言ってるから」っていう、「こういう子がいたとしたらかわいそうだから」っていう、一人一人に寄り添った話と、本当に、やっぱり離れてしまうというのが、感じます。そして毎回こういう場で議論がかみ合わないっていう理由も、そういうところにあるんだと思います。あとこの一問一答形式と言うのも、結局、議論が毎回散らばっちゃうんですね。じゃあ、最初にあった、学区の根拠になってる標準規模の問題を掘り下げていこうと思ったら、やっぱりほかの方の意見を言う時間がなくなっちゃうから、じゃあとりあえずほかの方の意見を聞きましょうってなっちゃって、その都度その都度、「こういう視点があります」、「こういう視点もあります」、そうですね、なんか満足な回答も得られないまま言っただけで終わってしまうということなので、やっぱり議論の深まりっていうのが何回地域説明会を繰り返してもできていないっていうのも問題だと思います。で、今回の説明の中でさりげなく、「統合という方向で教育委員会は決めましたけど」っていうことをおっしゃってましたけど、このような過程を踏まえて、私は全然納得はできないし、納得できないって方は多いんじゃないかなと思います。それから標準規模の話にもう1回戻りますけれども、「船橋市立小・

中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」というものがホームページから取れるので、おっしゃるように私もあんまりホームページとか見るの好きではないんですけども、一生懸命取ってきました。平成 29 年 8 月にまとめられたものですが、この中の 10 ページ、あの、皆さん持ってない資料で申し訳ないんですけども、中学校における学校規模別学校数の推移、推計が出ておりまして、中学校の学校規模の問題ってというのがここでももう既に認識されているんですが、平成 29 年段階で標準規模校、19 から 24 までのところまでも含めた標準規模校になんとか収まっている学校がほとんど多いんですけども、この先平成 35 年になると、大規模校の数が増えていっちゃうってということが、大規模校はこの場合 25 学級以上です。で、30 学級以上の学校も増えていっちゃうって推計が、船橋市教育委員会の推計ではもう出されています。（教育総務課補足：「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」における推計では、30 学級以上の学校数は増えない見込みとなっています）でも、この問題のほうは、後回しになっているんですかね。平成 35 年ってもうそんなに遠くないんじゃないかなっていうふうに思うんですけども。そういうことを考えると、ここで1校学校を潰して、そのあとまたさらに大規模校になっちゃう学校の手当てのために、またどっかに新しく学校を作るよりかは、今ある学校はひとまず残しておいて、本音を言えば私は、もう全部選択学区でもいいと思うんです。行きたい学校を基本的に選んでいいよ、基本的な指定学区はあるから、そこに不満がなければそこに行けばいいけれども、何かしらの理由で、何となく校風が合いそうだから向こうの学校に行きたいとかでもいいと思うんですけども、そういうところを、選べたほうが、おそらくこの自由記述を書いたくださった皆さんは、一番納得できるんじゃないかなと思うんです。そのほうが学校も切磋琢磨せつさたくましますよね。この説明会の中でずっと、今回は出ていないですけども、子供たちの切磋琢磨せつさたくま、切磋琢磨せつさたくまってすごく聞かされましたけど、じゃあ、学校は切磋琢磨せつさたくましているのか、教育委員会の皆さんは切磋琢磨せつさたくましているのかということを知りたいです。これ、言っぱなしじゃなくって、何かしらやっぱりコメントはいただきたいです。

【管理部長】

では、管理部として答えられるところからお答えさせていただきますけれども、先ほどの標準規模校の考え方でございます。「都市部で」という回答があったっていうお話なんですけれども、地理的な条件から申し上げれば、やっぱり都心から 20 km 圏内にあるということで、なおかつ船橋市は、人口 64 万と言われてますけれども、これはまぎれもなく中核市最大の都市ということで、規模感から言えば、やっぱり都市と、大都市というふうに、船橋市全体ですね、というふうには考えています。ただ、先ほどご指摘がありましたように、地域、例えば西部地域、西部地区はまだ人口がどんどん増えています。一方でやっぱり、新京成を境にして北部地域というのは、人口がだんだん減少し、むしろ高齢化率が増えているという、様々な地域特性があります。その中で学校配置をどうしていくかということは、ご指摘もありましたけれども、ま

さにこれからの課題。この学校配置の基本方針というのは、29年度、これ改正なんですけれども、一番最初に作られたのは17年度です。既に15年度くらいのおきから、既に学校規模の偏りっていうことは将来の課題になるであろうということ、今後見直しをするに当たっては、何らかの基準が必要だろうというところでこの基準を作ってきたというところがございます。以上です。

【学校教育部長】

学校教育部です。市全体で自由選択制にしてと、そして切磋琢磨^{せつさたくま}、学校同士のというお話がございました。確かに子供目線っていうか、子供の希望とかっていう立場に立つと、まあそれも一つの学区選択の方法かとは思いますが、ただ、現状として、やはり皆さんが、先ほどから多くの方が言われているように、学校が地域の学校であるとか、やはり地域の中で育つとかっていうようなことを考えたときに、やはりその「地域」、「地域」っていうものを大事にしていくと、やはり一つの学区というものが生まれてくるし、それをただただ自由にその学校を選択できるっていうようにすることが、その全体の地域の学校としてそれが良いのか悪いのかっていうことについてもいろいろ課題が出てくると思います。ですので、現状、実際に、一つの理想形だとは思いますが、まだそういった自由選択という形に踏み込むという考えは教育委員会としては持っていません。以上です。

【司会】

よろしいですか。では、お願いします。

【発言者④】

船橋の教育2020というパブリック・コメントを募集していたのが、広報ふなばしに出てましたし、学校から配られましたので、私、読みました。とっても素晴らしい内容です。もしこれが実践できたら、日本に誇る船橋市になるぞっていうような内容でした。特にいいなっていうのは、地域の教育力を高めるっていうところなんですよね。学校と家庭と地域が協力して教育をしていくと。この教育の対象が子供だけじゃなくて、大人もみんなで作るといって、そういう素晴らしいものなんですよね。そういう素晴らしいものを実践する場として、金杉台中学校を使ったらいいんだと思います。金杉台中学校を、自由記載にも書かれているんですけど、小規模特認校にしてやってくる自治体、千葉県内にも多いですけども、別に学区関係なく、特徴的な船橋の教育2020を実践する場としての、金杉台中学校にきたい人みんなおいでっていうことで、地域の学校、学区のある学校と同時にそれをやったらいいと思うんですよね。それをやらずに、船橋の教育2020にも学校統廃合って書いてありますけれども、第8章かなんかに書いてありましたけれど、それはさておいて、それを実践する、パイロット的にやる側として、やるべきだと思うんですよね。（教育総務課補足：「船橋の教育2020」の「基本方針8」では、「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基

本方針に基づき、**学校規模・学校配置の適正化に向けて対応策を講じる**と記載しており、**統廃合については記載していません**。なお、「**対応策**」には**学区変更や分離新設なども含み、統廃合に限ったものとして記載しているわけではありません**）今回のアンケートにも、**選択学区とか学区変更と統廃合しかなかったけれども、小規模特認校っていう選択肢があってもいいと思います**。そのことを私、実は教育委員会会議に陳情しました。全員一致で不採択でした。こういう説明会に何度も来ても全然話がかみ合わないし、一問一答式だしっていうことだし、申し訳ないけど教育委員会の職員の皆さんは、何が何でも金杉台中学校を潰そうとしてごり押ししてるようにしか私たちには受け取れないんですね。そういう立場なのかもしれませんけど。だったら教育委員会会議の皆さんと、委員の皆さんと懇談会をやって、話しましょうよっていう陳情を出しましたけど、不採択でした。このアンケートの自由記載欄にも子供たちの声を聞いてくださいっていうのも、繰り返し出てきていたので、小学校の子供たちに、中学校の子供たちに直接出てきて、事の経過とかを直接教育委員の人たち、教育委員会でも教育委員でもいいんですけど、説明してください、それには教育長、松本教育長に来てもらって、子供たちに直接話してくださいっていう陳情も出しましたけど、全員一致で不採択でした。一方では船橋の教育 2020 っていう素晴らしい方針を出しながら、ビジョンを出しながら、片方ではこうやってそれを潰すような、それと真っ向から反対するようなことをやって、すごい矛盾で、一体どういうことなのかっていうふうに思ってしまう。小規模特認校という選択肢も入れてほしいし、それを議論してほしいです。先ほどさらりと冒頭のところで、教育委員会会議を3月5日でもう金杉台中学校を廃校にするっていう方針を決めて、それを3月28日に説明する予定であるということでしたけれども、拙速です。十分に議論できていない。それはここに来てみんなも思ってると思います。この間の、私は傍聴には行けなかったんですけど、文教委員会でもそういう、委員さんたちが、議員さんたちがそういう意見を出してくれたというふうに聞いています。また、それとは全く別に、2月2日の土曜日にたまたま文教委員である島田たいぞう議員に、たまたま直接会って話をできちゃう機会があったんですけども、あの方にもお話を聞いてみたら、廃校とか統合とかそういうことじゃなくて、もっと議論を深めたほうがいいと思うってはっきりおっしゃっていました。文教委員のベテラン議員さんですらそういうふうにおっしゃっていました。だから、議員さんたちもそう思っている。にもかかわらず、教育委員会会議とか教育委員会の職員の皆さんがごり押ししてるようにしか私たちには見えません。そうじゃなくて、ちゃんと、一問一答式じゃなくて直接対談する、懇談するような機会をこの先も続けてほしいというふうに思います。

【学務課長】

学務課です。今のご意見いただいた中で、小規模特認校制度というようにお話が出ましたので、それについて私から説明させていただきたいと思います。今、ご指摘いただいたようにですね、小規模特認校制度ということ了他市でやっているということ

は、我々も認識しているところでございます。小規模な学校を小規模特認校として、いわゆる通学区域以外からも広く転入学を認める。そういうことです。そのときには、他市見てみますと一定の条件を付す事例がほとんどでございます。市内全域から認めますよ。通学方法や時間等に一定の範囲を設けて認めるところもありますし、また事前に面談をして、卒業まで通学するなど、様々な条件を付してやってるというふうなことでございます。例えば柏市、木更津市で実施しておりますが、市内全域から通学することができます。通学について保護者の負担と責任において行うこと。卒業まで通学すること。学校の教育活動等に賛同すること等の条件も持っております。ただ、どちらも各学年何人という上限の人数を定めている制度ということで確認をしております、上限に達している学年はないというふうなことでございます。特認校制度についてですね、こういう制度があるということで認識しておりますが、やはり子供たちの通学の負担、学校教育部長から話もしましたが、学校と地域のつながり等の課題も数あるというふうに思っておりますので、現在のところ、小規模特認校制度を船橋市に導入するということは考えていません。以上でございます。

【司会】

それでは、奥の方お願いいたします。

【発言者⑧】

今日の金杉台地域の説明会、今回初めて参加するんですけども、高根台第一小学校で子供を通わせていて、途中で高根台第三小学校に統合された保護者です。PTAの役員をしておりました。そのときの会議の感じと、今回の、今質問とのやりとり聞いてて本当に同じだなと思ったんですけども、教育委員会のほうでは結論ありき、統合するというような方向に持っていくために話をしているように感じてなりません。今の地域の学校というようなお話がありましたけれども、自由学区にするには、学校は地域のものだから、地域の中の人たちと一緒にというふうにおっしゃっているのに、それが逆に指定区にしましょうと、金杉台中学校に人数を増やしますっていう方向の指定区にするっていうところに関しては地域の学校というふうな話にはならないわけじゃないですか。御滝中に行ってもいいと。だったら、地域の学校にするんだったら、指定区を守るというような方向だし、どっちかに、教育委員会の方がおっしゃってる理屈が、どっちにしても金杉台中学校を統合する方向に持っていくような理論になっているような気がしてなりません。先ほど、保護者の方もおっしゃっていたように、やはり学校の問題というのは、子供たちの気持ちが一番大事だと思います。うちの子たちが^{たかいちしょう}高一小から^{たかさんしょう}高三小に行ったときに、^{たかいち}高一には不登校の子がいなかったけども、^{たかさんしょう}高三小にはいたと。やっぱり人数の多いところは良い子ばかりじゃなくって。少ないところはじっくりみんなと仲良く、小規模だけれどもそこで、学校で仲良く通いたいって子供たちもいると思うんですね。そういう子供たちや保護者の気持ちも受け止めて、結論ありきでない議論してほしかったなというふうに、高根

のときにも思いましたけれども、今もそういうふうに思います。あと、まちづくりという観点で、高三小学校に高一が統合するときに、もし高三が溢れたらどうなるんだってというような議論はありました。で、実際今そうなって、高二小に遠いところから、新しく高根台地域に越してきた新しい戸建ての子たちが、とても時間をかけて高二小に通っているという現実もあります。だから、先のことも考えてどのようにしていったらいいのかっていうものを、やっぱり金杉台地域のことも、ちゃんとまちづくりという観点で、両方で、結論ありきでなく、本当に地域の方と一緒に、議論していったただくのがいいのではないかというふうに思います。すみません。

<参加者から拍手あり>

【司会】

そのほかよろしいですか。では、申し訳ありません、後ろの方よろしく願いいたします。後ろから2番目の方です。

【発言者⑨】

すみません。なるべく短く言います。最初に、地域の方にアンケートを配って声を聞きましたっていう話も、説明の中にあっただけですけど、そのアンケートを受け取った人はわかると思うんですけども、今日資料でさらっと見た人はあまり感じないかなと思うのが、金杉台中学校に指定校にするかしないかっていう設問のときに、していいとは思わない人に限っては自由記述欄がある。だから、金杉台を残さない方向とか、指定区域になってほしくない人の意見は聞く、答える自由記述欄はあるんですけども、この全体のこのことに関しての自由記述欄っていうのはなかったんですね。で、余白にみんな意見を書いたりとか、違うところでも意見書いたりとかっていうのが、一応ここにはまとめてくださってはありますけれども、広く意見を聞きましたっていう説明にはこれではならないと思うので、最初のほうにも出ていた、アンケートは無効なんじゃないかっていう声に関しては、私も賛成というか、同じ思いであります。で、ちょっとなんかアンケートの中に、9ページの(3)とか、この地域を良く知らない方、小学校、近隣の小学校のアンケートの「統合したほうが良い」の442っていうのをすごく強調されているように聞こえたんですけども、ここで子育てをしていない方であれば、ほかの地域のことにはあんまり情報がないまま、「数が減ったから統廃合、しょうがないんじゃない」みたいな感じで答えてしまうっていうこともかなりの確率であると思うので、あまりちょっと当てにならないと言ったら申し訳ないんですけども、そこではなく、こっちの地域で子供を育てている人の声にもう少し耳を傾けて、3月の結論ではなく、もう少し意見をきちんとアンケートなり説明会なりで聞いてもらいたいなと思います。この統廃合はなんのために行うのかっていうところがとても疑問で、子供のために広く選択、広い視野をもって勉強できるようにとかっていう声はちらほら説明の中に出てくるんですけども、今、二和小の4年生

ちょっぴり溢れ気味だっという声とか、戸建てが増えるというのは地域の声がまさにこれで、周りにどんどん家が建っているんです。それを見てる私たち地域に住んでいる者からして、この中学校をなくして御滝中に統廃合して、御滝中が溢れたらじゃあどうするんだっという声に関しては何もお答えもなく。*(教育総務課補足：「第3回金杉台中学校に関する地域説明会」において、「推計上、御滝中学校が金杉台中学校と統合した場合、学級数は最大で28学級となるが、受け入れは可能である」と説明しています)* また、今の御滝中の環境がどんなふうになってるか、不登校が学年で30人以上いるとか、そういうのはうわさで回ってくるんですけれども、そういううわさを知っている人は、何となくこういうアンケートのときも、「あれじゃ嫌だな」とか、「しょうがないな」とかって思うことはあるんですが、ちゃんとした情報もないなっというのが、いつも思っています。*(教育総務課補足：「第3回金杉台中学校に関する地域説明会」において、御滝中学校の不登校率は、船橋市全体の不登校率3.45%と同程度であるという情報を提示しています。なお、御滝中学校に限らず、各学校の具体的な不登校率については、教育上の配慮から開示していません)* やっぱり金杉台中を選んで来ている子が今でもいるし、これから選んで行きたいと思っている子供たちもいるっていうところにもっと目を向けて、あと、ここを何で選んでいるのか、どうしてここが選ばれているのかっていうところにも、もう少し踏み込んで統廃合について、また、存続をするにはどうするのか、じゃあ、せつかく目を向けたんだから、御滝中の環境は今どうなのか、金杉台だけじゃなくて御滝中を選んで行った子のことも、これを機に考えてもらいたいなど、とても思います。で、塚田のほうにマンションが建って、子供が溢れてバスで送迎して学校に行っているっていうこともあったりして、あちらに中学校ができるような計画があるのかなと思うんですけれども、金杉台を潰してそっちに予算を回したいから余計に指定校変更とか、年数をかけて部活動を理由に滝中に流してこっちの人数を減らして、外には「子供が減ったからしょうがないよね」みたいな形で統廃合をしているのかなって。まあ、言葉はちょっと悪いですけど、だまされているというか、そうやって誘導されて、表向きには仕方ないみたいな説明をされているようにとても感じて、地域を選んでここで子育てをしている親の気持ちは何も考えてくれない。選んでいる子供のことは何も考えてくれないんだなっというのを、日々感じています。3月の結論っていうのは、やっぱり早すぎると思います。私たちがこうやってこの場に来るのも、仕事があれば、お知らせが来てからその日に向けて準備をするっていうのはとても大変で、下の子がいれば熱が出たとか、習い事があるとか、パパがお休みじゃないとか、いろいろあるんです。一番子供のことを、お父さんには悪いんですけど、身近で考えているっていうのは、やっぱり母親のほう時間が気持ちの割合も多いと思います。同じぐらい思っているお父さんもいると思いますが、今は仕事も時間も多種多様で、この日に合わせて時間を作るっていうのは、やっぱり難しいところたくさんあります。そしてこういうことが2、3か月に1回なんとなくあるよという、学校のたくさんあるお知らせの中にペラッと混じっていても、なかなか目を通してここに標準を合わせて生活をするっていうのは、

現実、とても難しいです。そういうこともあって、参加人数が30人にも満たないみたいなの、ちょっと馬鹿にしたように聞こえる言い方をされるのはとても心外でしたし、ちょっと、そういう言葉はもう少し選んでもらいたいと思います。3月の結論は、時期尚早だと思います。

<参加者から拍手あり>

【司会】

よろしいですか。では、後ろの方から、女性の方からお願いします。

【発言者②】

すみません、2回目ですので、早く済ませます。パブリック・コメントに、「特認校制度の導入を」とうたったのは私です。それに対する個人的な返答はないんですが、文教委員会の傍聴に行かせていただきましたので、その場で答えは、資料としていただきました。なんか、お決まりの定例句がポンと貼り付けてあるような答えで、今、学務課長さんがおっしゃったような、「導入するつもりは、今はありません」。じゃあ、いつやるんですか。今、私たちは、教育委員会というよりはあなた方とお話してるんですよ。どこ見て話しを聞いてるんだかさっぱりわかりません。松本文化教育長、あの方が、船橋中学校の校長先生だった頃に、金杉台小、中、創立40周年式典を行いました。私、そのときに実行委員長を務めておりました。で、記念誌を作って、もちろん出席してくださって、直筆のお手紙をくださったんです。感動しました。中身は何かと言うと、「小規模ながらも、記念誌の中から溢れんばかりの子供たちのエネルギーが伝わってくる。感動いたしました」。感動のお手紙、直筆ですよ。嬉しくって、電話をして、お話しをしました。で、残念なことに私は式典というものは経験しないまま終わりますという言葉でしたけれども、松本文化教育長の気概を信じております。あと、木村泰子さんの書いた、『『ふつうの子』なんて、どこにもいない』、大空小学校を舞台にした本、皆さんは読んだことありますか。あと、明石市長、泉さんの本を読んだことありますか。ないんですか。だから、船橋の教育は遅れてるって、みんなに言われちゃうんですよ。遅れてるんですよ。導入しません、やりません。じゃあどうすればいいんですか。地域でまちづくりをしていく中で、学校は地域のものですよ。まちづくりってすごく長きにわたるもので、とってもデリケートなものなんです。そこで交渉していかなければいけない。行政とはどうしても向かい合っていかなければいけないときに困るのが、後々のあなた方が、コロコロ変わってしまうことなんです。3年経てば人が変わる。また説明し直さなければいけない。この繰り返しの中でまちづくりって、していかなければいけないんですよ。学校は地域のものです。まちの中に学校がないなんて考えられません。特認校制度を採り入れる。あるけど廃れたこの学校、これを使うのが一番のチャンスなんです。以上でございます。

【司会】

ではお願いします。

【発言者①】

6 ページの表です。「a.統合したほうが良い」多分、現時点では、御滝中学校へ進みたいと思ってらっしゃるでしょう。「b」、「c」、「d」です。これ、現時点で既に金杉台中学校へ通いたいと思っているか、あるいは条件を整えば金杉台中学校へ通ってもいいっていうふうに、私には思えます。「b」、「c」、「d」足すと、240あります。6 学年で240 ですから、3 学年とすると120 です。現在の金杉台中学校の生徒数59 人ですから、ほぼ倍です。もしこれ、教育委員会でその気になっていろいろ条件を整えたりすれば、今の倍までは十分潜在需要があると思うんです。これ、あの、今後どんどん減ってるっていう見込みで推計たててますけど、この推計の数字、いくらでも変わると思えます。この推計の数字、いくらでも変わります。あとは、教育委員会がその条件を整えるかどうかです。今後なくなっちゃう予定だから行くのが嫌だと言って御滝中学校に行った子もいます。1 クラスじゃ嫌だ。でも2 クラスくらいあったら行ってもいいんだけど、っていうんで、御滝中学校に行った方もいらっしゃいます。それから、本当は御滝中学校の学区域だけれど、金杉台行きたいんだけど、越境が認められないんでしょがなくて御滝中学校に行っているっていう人もいます。教育委員会がその気になれば、2 クラスまでは簡単に増えると思います。

【司会】

ありがとうございます。

【発言者⑦】

すみません、2 回目ですけれども、また、先ほどの高根台第一小学校から高根台第三小学校のほうに移られた方の意見に関連するんですけれども、で、結局そういう経緯があって、その後、^{たかさん}高三小学校から子供が溢れたら今度は^{たかに}高二小のほうにまた行っているっていう現実があるっていう、それをまた中学校で繰り返すつもりなのかなという疑問を感じてしまいます。それからその後での質問で、塚田のほうにマンションがたくさん建っていて、まあ、小学校も新しくできたし、そちらのほうに中学校を今度は作るんだろうかっていう話もありましたけれども、その都度その都度、場当たりに、中学校、減ったら潰して、増えたらその地域に建ててということ船橋市は繰り返していくつもりなんですか。多分これ、地域の学校という話と関連付けますけど、まちづくりというところにつながる話だと思うんですね。だから本当は、ああ、こういうことになるんだしたら、ここに松戸徹市長も来ていただいたほうが良かったんじゃないかなっていうふうに思ってしまいうんですけれども。一気に住民が増えたところっていうのは、子供が溢れる一方で、人同士の関係の希薄化っていうことが起こるんです。私、福祉分野のほうで働いているので、今度は地域包括支援センタ

一とかの、じゃあ地域課題は何かっていう話になったら今度は、人数が増えたことによる、逆に、増えるのは良いんだけど、希薄化が起こっているとかっていうこともあるんです。なので、地域の学校とかっていうこととも関連付ければ、もっと、まちづくりっていう大きな視点っていうのがやっぱり必要になってくるんですね。だから、すごく話を小さく小さく区切って一つ一つ、事務的に進めていくように感じてしまうんですけども、それを繰り返していると、本当に、また溢れた中学校から、じゃあ今はなくなってしまった金杉台には通えないからまた別のところに行くのかっていう問題が繰り返されると思います。それから、先ほどの大規模校が平成35年には、5校、29年の推計の時点で、29年の1校から5校に増えるっていう推計がもう出ています。平成35年って、令和5年なのでもうあと3年後です。これから取り掛かりますっておっしゃってますけど、これから取り掛かって、急いで学校あといくつか作るんでしょうか。それよりは、今ある学校を残して船橋市全体での学区の見直しなり、あと、あの自由化っていうのは、すごく生徒が自由に動いてしまうっていう印象を持っているのかもしれませんが、実際にはそんなに生徒ってたくさんは動かないと思うんですね。コアなところは多分そんなには動かない。でもその中で選択できるよって言われれば、ある程度は動く。だから、むしろ穏やかな弾力化じゃないかなというふうに思うんです。そのほうがむしろ現実的な対応ではないでしょうかというところです。コメントをお願いします。

【学務課長】

学務課でございます。学区の自由化ということにつきましては、先ほど学校教育部長のほうから話をさせていただいたところでありまして、学区の基本的な考え方というところで、お話をさせていただいていると思うんですが、地域によってかなり児童生徒数にばらつきがあるということは皆さんご承知だと思いますけれども、学校規模を優先しますと学校配置に偏りが出ますし、学校配置の適正化を優先すると学校規模が偏るという、そういう反する側面がございます。ですから、単純にこの学区、学校を標準規模、適正配置に当てはめることはできないんですけれども、やはりその課題の中で学校規模に応じて通学区域の変更だけではなく、通学区域の弾力化とか、そういうところも含めて総合的に提案していくというふうなことで対応しているところでございます。

【司会】

では、ご意見ございますか。今、お二方手を挙げてらっしゃるので、そのお二方で質疑のほうは終了させていただきたいと思います。窓側の方からお願いします。

【発言者⑩】

保護者の観点から言わせていただきたいんですけど、地域選択ってありますよね。金杉台小学校から金杉台中学校のこの問題になってから、地域選択があったっていう

のがちょっとわかるようになったんですけど、それまで、今まで中学校に通わせてたときには、地域選択っていう制度みたいなのをわかってない。保護者にとって、「何それ」みたいな感じ。で、「選べるの」みたいな感じになってしまっていて、なんか、そもそも根本的に、「地域選択って何」っていう感じなんですね。保護者的には。今回こういう、金杉台中の統廃合の問題があったから「選択があるんだ」みたいな感じで、ほかの中学校とか、二和小学校とかの人とかも関心を持ってくれたかもしれませんが、そもそも地域選択自体も小学生の保護者に対しての、説明、こういうことになってるんだよっていう説明がちょっとないような気がします。小学生も、いきなり中学校を選べって言われてもわかんないと思うんですよ。自分で選べって言われても、「何それ」みたいな感じになると思うんで。中1ギャップとかありますし、そもそも小学生が自分の行ける中学校を見学できるようなシステムをそもそも作ってほしいなと思っているんですね。まあ、選択、選択じゃないってのがあるんでしょうけど、そこら辺のクッションがちょっとないかなって。小学生にいきなり選べって言われても選べないし、小学生に選べなくても保護者もちろん選べません。なんか、そういう中学校に対する情報が、自分で調べたらって言われたらそうなんですけれども、結構皆さん、保護者は忙しいので、いちいち調べてられないので、小学生の保護者に対しての説明会みたいな、選択に関しての、金杉台中に関係なく、統廃合に関係なく、選択の説明会がほしいなと思いました。以上です。

【司会】

ありがとうございます。

【発言者⑩】

要は、その統廃合の問題っていうのは、子供の人数が減っているということですよ。簡単に言うと。あとは、地域の実情について考えていくと。で、日本は、昨年かから国策で外国人を受け入れるという方針に転換しました。転換しましたよ。そのときに、例えば金杉台のところに外国人が来ないっていうことであればね、まあそれはわかるんですけども、その辺、来る可能性っていうのはあるのか。また外国人が公立学校に入ってくるようになると、当然その、逆に、子供の数が増えるというね、まあ、リスクっていうのは変かもしれませんが、入ってくる可能性はあると思うんですよ。そこについての分析についてお尋ねします。

【学校教育部長】

学校教育部です。すみません、今のご質問に対して、確かに市全体として外国から子供たちの入学が増えているということは事実でございます。この地域にと、そういう細かい限定での情報は、今は持っておりません。

【発言者⑪】

それでは、例えば外国人の子供が来た場合に、その子供は、あくまでも希望に応じて学校に通っていただくのか、あるいは義務的に通うことになるのか、これはどちらですか。

【学務課長】

学務課です。外国人の方ですね、学務課も相談ということで、窓口に来る方もたくさんいらっしゃいます。学校につきましては、どちらにお住まいになるかというところですね。そこを大前提ですけれども、日本語が全くわかるとかわからないとか様々な情報がありますので、学務課のほうで通学に関しての相談を受け、そして指導課のほうでそういう教育的な配慮が必要かどうかということも相談を受け、総合的に判断して、保護者と対応しているところでございます。

【司会】

よろしいでしょうか。

【発言者⑩】

大前提ですね。憲法上これって、外国人の子供を教育受けさせなきゃいけないってことなんですか。

【学校教育部長】

外国人の方、外国籍というような意味で言われているかと思うんですけれども、憲法上とかっていうことで、例えば親に対して必ず義務教育、学校に行かせるっていうことが義務ですよとかっていうことは、こちらからは言えない。ただ、例えば子供の権利とかいうことを考えたときに、学習の機会を極力ちゃんと持てるようにするっていうことで、就学をしっかり勧めていくというのが教育委員会のスタンスであると考えます。

【発言者⑩】

結構です。

【司会】

ありがとうございました。では、最後お願いします。

【発言者⑤】

すみません、2回目で申し訳ございません。いくつか前に意見のあった、金杉台中はなくなるからっていううわさを聞いて、しぶしぶ御滝中に行った人が何人かいるということがありました。そういう方たちの気持ちとか、あと現在、御滝中で不登校になっている子たちが、「じゃあ、金杉台中が残ったら行ってみる?」、そういうアンケート

ートをまた取っていただくことはできないでしょうか。御滝中学校はとても人数が多くて、実際、いろいろ、不登校までいかななくても悩んでいる子たちもいるかもしれないし、トラブルがあったりだとか、学校生活アンケートっていうのも、毎年取ってるはずで、そこで子供たちの意見を聞く。もうなくなるっていう噂が広まってしまっているから、結果こういうふうになっているっていう事例があるならば、残るんだよって、御滝中学校の人数の膨らみ方を、そこを改善する努力が何もされてないと思いますので、これからでも構いません、3月に結論を出すのではなく、もっともっと今日出た意見をきちんとくみ取っていただかないと、ここの地域の方たちの反感は強まるばかりだと思いますので、良く良くご検討いただけたら幸いです。よろしくお願いたします。

<参加者から拍手あり>

【司会】

それでは、本日多数のご意見をいただきました。もちろん、これを教育委員会としては再度検討するということになりますので、ありがとうございました。

【発言者⑨】

すみません、それ、今日の意見を聞いて、再度検討して、結果を延ばすとかいう気持ちが皆さんの中にあるんですか。さっきは「このままいきます」みたいな、「統廃合でいきます」みたいに言ってましたけど、今日の意見を聞いて、しかも今日は一部の意見だと思うんですけど。

<「このままいくととんでもないことになると思います。これ、法律違反だと思います。すみません。」という発言あり>

【発言者⑩】

一部の意見だし、今日、朝発表された時点ではこのまま統廃合に向けて話し合っていきます、3月に結論を出しますっておっしゃいましたけど、今日、一部の私たちの意見を聞いた上で、もう1回、再度もまれるつもりは元々あったのかっていうのが、すごく気になります。「今日は聞きました、はい、終わり」っていう今までの繰り返しで、今日も「はい聞きました。統廃合に向けて動きます」っていうシナリオができた上での今日なんであれば、私たちの気持ちは元々踏みにじられてたとは思いますが、さらにやっぱり踏みにじられることになりますし。皆さんここの行事に本当に来たことありますか。子供たちがどうやって中学校と小学校の子たちが交流したとか、発表の歌ってる姿じゃなくてそれ以外の子供たちの姿とか、上の子が下の子を面倒見ることの、心情論で言えばまなざしとか表情の変わり方とかそういうところって、こういう地域でしか育たない特別なところもやっぱりあったりもするので、やっぱり

机上の理論の数字だけで判断するんじゃなくて、本当に地域をもっと目を向けた方が議論をして、決めてほしいんですけど、今日のことを再度検討して、結果が変わるつもりがあるんですか。

【教育次長】

教育次長でございます。今日はどうもありがとうございました。ちょっとお話をさせていただいていいですか。全体聞いてまして、どっかの新しい中学校ができるから金杉台中学校を潰して予算を確保しようとか、そもそも金杉台中学校を潰すために教育委員会が仕向けていったみたいなお意見もいただいたんですけども、そんな気は全くないです。本当はないです。

【発言者①】

それが嘘なんですよ。

【教育次長】

いや、本当はないですよ。

【発言者①】

予算作成の会議の中で取り上げられてますよ。

【教育次長】

子供たちのことを考えてやはり単学級で、しかも人数少ない中でこのままずっと継続しているような状況は、やはり教育上本当に好ましくないというのがきっかけです。それで、唯一存続できる方法としてですね、今回のアンケートをとらせていただいたんですけども、46 ページのところ、見直し案②ですね。普通の船橋市内の学校、学区の考え方では、部活でこっちの学校に行きたいっていうのを、全市的には認めているんですけども、本当に金杉台中学校を存続、複数学級で存続させていくためには、もう指定しかないんですよ。固定するしかないんです。

<「残す方法はあります。そこにこだわらないでください、選択肢を限定しないでください」「現場を見ていないで何で教育上好ましくないなんて言えるんですか」「黙って聞けよ。いったん言わせろよ。それから質問しろよ」との発言あり>

【教育次長】

本当に、もしここの地域のアンケートをとって、地域のこれから今の小学校の方たちが、「いや、金杉台中学校に限定されるけれども、それでいいよ」というご意見があればですね、御滝中のものも解消される部分もありますので、この46 ページのね、こういうことが、地域の皆さん本当に全員の合意が取れば、見直しっていうことも

ですね、十分考えられると思うんです。ただし、やっぱりこういうアンケートを取ると、「いや、選択が良い」「限定しないでくれ」っていうご意見の方が多かったっていうのがやはり、地元の全体を見た皆さんの印象というふうには感じています。それで、今回ご意見いただいたので、もう結論ありきで3月に出すかどうか、それはいったん持ち帰らせていただきます。持ち帰って検討します。その場合で、じゃあ、でもやはりいろいろご意見いただいたけれども、解決策になるのかならなのかとかですね。本当にもうちょっと検討すれば別の道が開けるのかとかですね。そういうことで教育委員会としては判断をさせていただきます。ただ、今日いただいたご意見については、本当に持ち帰って誠実に検討したいというふうに考えております。以上です。

【司会】

もうしわけありません。時間になりますので、もし今の次長の意見に対して何かあれば、この後個別で対応をお願いいたします。

【発言者⑦】

それは記録に残してくださるのでしょうか。

【司会】

それはまた別になります。

【発言者⑦】

今のお話の中だけでも、今までに何度かこちらから投げかけた問題が、結局もまれずにそのまま残っているんです。単学級の教育的弊害を証明してください。されていません。ただそれがあたかも既定の事実のように語られています。外国籍の子供の問題もそうです。前に投げかけたことがありますけれども、もんだ形跡がありません。もっかい持ち帰ってもみますって言うけど、それじゃ今までの実績からして信用できません。

【司会】

お手元にですね、意見の記入用紙がございますので、今、ご意見ある方はそこに書いていただければと思います。

<「全部ゴミ箱行きじゃん、これって」という発言あり>

【司会】

前回同様ですね、本日の説明会の開催結果については、関係小・中学校の各世帯、地域の町会・自治会にお配りする予定です。ホームページにも掲載して、ご確認いただけるようにいたします。

第4回 金杉台中学校に関する地域説明会 会議録

それではですね、時間を過ぎておりますので、以上で「第4回金杉台中学校に関する地域説明会」を終了いたします。どうもありがとうございました。